平成30年度　蘇南高等学校　入学式　学校長式辞

冬の代表的な星座であるオリオン座が、夜半になると学校西側に聳え立つ伊勢山に姿を隠すようになりました。そして日中は、花桃、桜、ミツバツツジが新しい年度の始まりを祝うかの如く、一斉に咲きほころぶ季節となりました。

本日ここに平成30年度長野県蘇南高等学校の入学式を挙行するにあたり、長野県議会議員村上様、南木曽町長向井様、大桑村長貴舟様、同窓会長樋口様、ＰＴＡ会長末松様をはじめとして、本校の教育活動に格別なるご支援をいただいております地元市町村、教育関係者、同窓会、ＰＴＡの皆様方にご臨席を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、ご子弟の本校へのご入学、まことにおめでとうございます。義務教育を終え、次の進路を考えるにあたり、親子ともどもいろいろな心配、不安があったことと思われます。それ故に、本日、真新しい制服に身を包み天白台に登ってくるお子様の姿に感慨深いものがあったと拝察いたします。保護者の皆様のご期待に沿えるよう、我々教職員一同、身を引き締めて精一杯の努力をする所存です。不明なこと等があれば、どうか遠慮なく学校の方にお伝えいただければ幸いです。

６９名の入学生の皆さん、あらためて蘇南高等学校への入学、おめでとうございます。昭和28年の創立以来、すでに63回の卒業生が本校を巣立っており、その数は９千余名となっています。換言すると、９千余の夢と希望がこの天白台に集ったということになります。皆さんもこれから過ごす天白台での３年間で、自分の夢と希望を大いに膨らませ、３年後にはこの学び舎から大きく羽ばたいてくれんことを期待しています。

さて、昨今の国内・国際状況を鑑みますと、我が国だけではなく、世界中の多くの国、地域が大変革の時を迎えようとしていることに気が付きます。人類は、18 世紀末の水力や蒸気機関による工場の機械化が推し進められた第１次産業革命、20 世紀初頭の電気と石油を用い大量生産を可能にした第２次産業革命、1970年代からのコンピュータを活用しオートメーション化を成し遂げた第３次産業革命を経験してきました。そして今、我々の周囲にある全ての「モノ」がインターネットに繋がるＩｏＴ（Internet of Things）により集積され、その結果得られたビッグデータを人工知能（ＡＩ）が解析することによって、車の自動運転はもちろん、患者一人ひとりの状態を踏まえた細やかな診療支援、顧客のニーズに素早く応答できるマーケティングシステムの構築等が可能になる第４次産業革命の時代に突入したと言われています。

しかし、第４次産業革命が成熟する近未来は、人類にとって手放しで素晴らしいとは言い難い社会でもあります。オックスフォード大学のオズボーン准教授は、今後10年～20年程度で約47％の仕事が自動化されると予測していますし、近代経済学で有名なジョン・メイナード・ケインズ博士は、すでに20世紀半ば「2030年までには週15時間程度働けば済むようになる」と予言していました。人工知能やそれに操られるロボット達が私たちの雇用を奪うことになるかもしれません。また、多くの科学者たちは、2045 年までに人間と人工知能の能力が逆転する技術的特異点、すなわちシンギュラリティを迎えると予想しています。人間が生み出した人工知能に人間自身が支配され駆逐

されるかもしれない時代。かつて近未来を描いたＳＦ映画が人気を博したことがありましたが、その世界がすぐそこにやってきているのかもしれません。

このように不安定要素が強い現代にあって、新入生の皆さんはこの蘇南高校に何を求め何を得、そして何を成し遂げて卒業していけばいいのでしょうか。

今から遡ること2500年、中国の春秋時代の思想家、孔子とその弟子によって記録されたとされる『論語』の一節に、「子曰、学而不思則罔、思而不学則殆（しいわく、まなびておもわざればすなわちくらし、おもいてまなばざればすなわちあやうし）」という言葉があります。この場合、「学ぶ」という言葉を知識や情報を得るとし、「思う」という言葉を思考すると解釈すると、知識や情報を得るだけで思考しないことは愚かなことであるし、その一方、知識や情報なしに思考するだけでも十分でないという意味になります。これから皆さんは教室の中で教科書や副教材の内容を先生方に教わります。それは知識です。しかし、教わった内容をただただ覚えるだけでは思考につながりませんし、その逆で知識を身に着けずして事物の因果関係や物事の原理を理解することもできません。正しい知識や情報を得た上で賢明な判断を下すことが必要だという孔子の言葉を今一度噛みしめて高校生活を送ってほしいと願っています。

時代は下り、やはり中国明代の思想家王陽明は「知行合一（ちこうごういつ）」を唱えました。「知ること」と「行うこと」は分離不可能であり、知識を得たらそれと同時に行動として表れることが大切だと説きました。「知は行の始なり、行は知の成るなり」という一節は、先の孔子の言葉に通じるものがあります。さらにこの一節は、長州藩松下村塾の吉田松陰やその門弟であった伊藤博文、山縣有朋らに影響を与え、結果として激動の幕末期にあって明治新政府を作り上げる原動力になりました。このように、困難な時代にあっても知を尊び、それに基づいて思考し行動することで新たな時代を築き上げることができるのです。予測困難な時代ではありますが、孔子の言う「学び」と「思考」、王陽明の言うところの「知る」と「行う」を同時に実践し、新たな時代を築くだけの力を本校で身に着けてほしいと願って止みません。

最後にもう一つ、新入生の皆さんの心に留めておいてほしいことがあります。本校は、木曽谷南部の後期中等教育の空白を埋めるため、地域の念願が叶って組合立高校としてスタートした経緯を持ちます。何もないこの天白の台上に、地域住民や生徒自らがつるはしを振るい作り上げた学校です。その歴史を忘れることなく、常に新しいものを切り拓いていこうというところから開拓者精神を具現化する学校であることを誇りにして現在に至り、そしてこの先も力強く進む使命を持っています。地域が作り地域とともに歩み地域を愛する人材を育んできた学校であることを、新入生諸君には申し添えておきます。

結びに当たり、本日ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、保護者の皆様には、本校の教育活動に対し、今後とも大いなるご理解とご協力をいただきますよう切にお願いを申し上げ、式辞といたします。

平成30年４月６日

長野県蘇南高等学校長　　小幡　正樹